

## 国立国語研究所収蔵音声・映像資料と試視聴システム

高田智和, 石本祐一, 関川雅彦

国立国語研究所は、1948（昭和23）年12月の創設以来、70年にわたって、日本語に関する様々な課題を対象に、調査研究を重ねてきた。各調査研究の成果は報告書や論文として公刊されてきたが、研究の一次資料に相当する調査票・録音（音声資料）・録画（映像資料）も現存する。現在それらは国立国語研究所・研究資料室に保存され、集中管理されている（資料群の目録は「国立国語研究所 研究資料室収蔵資料」<https://rnr.ninjal.ac.jp/>にて公開）。

音声・映像資料は、談話収録や面接調査の記録であり、オープンリール（約2,800点）、8mmテープ（約250点）、カセットテープ（約17,000点）、VHSビデオテープ（約600点）、ベータビデオテープ（約200点）、デジタルビデオ（約1,800点）など、様々な媒体で保存されている。しかし、媒体の経年劣化と、再生機器の生産中止などにより、録音・録画の視聴が困難になってきている。そのため、デジタル音声（wav, mp3）・映像（AVI, mp4）への媒体変換を進めている。2019年3月現在、デジタル化済みの音声資料は21,150点、映像資料は845点である。

デジタル化の目的は音声・映像資料の保存と再利用である。近年のオープンサイエンスの主旨に照らせば、調査研究の一次資料は、検証可能な状態で保存・提供されねばならない。また、過去の録音・録画を再利用し、新たなデータ群を作成した上で分析を行おうとするニーズもある。2018年度からは、「所蔵音声・映像データベース」を運営し、所内限定利用であるが（個人情報保護のため）、研究・教育を目的とする外来者の来館利用にも提供している。「所蔵音声・映像データベース」は、デジタル化済みの音声・映像資料を収録し、ファイル情報のメタデータ検索と、専用プレイヤーによる再生環境を備えた試視聴システムである。